

1. 万博工事期間中の交通影響等について

～前回（R5.10時点）から見直し・更新～

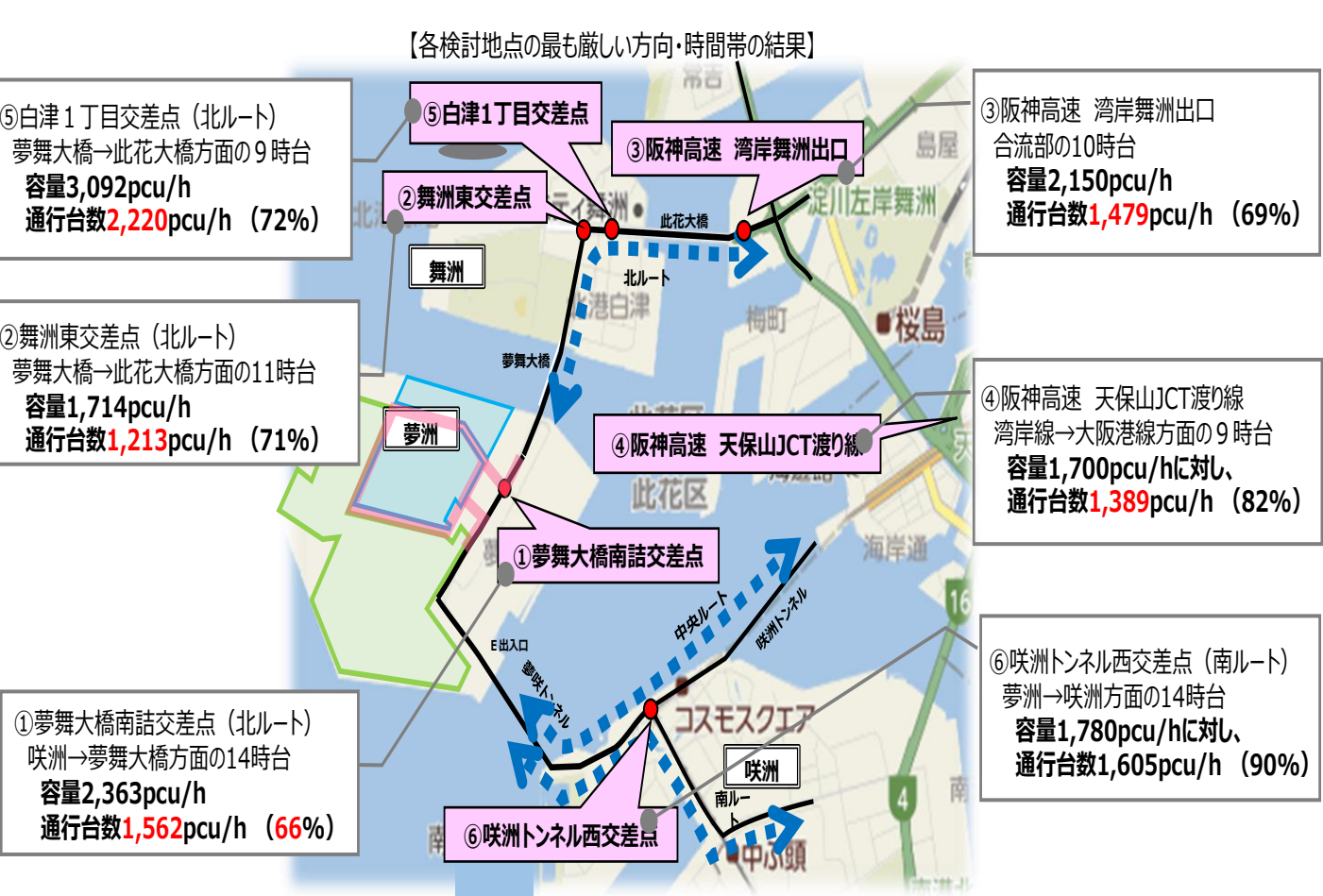
1-1 万博工事期間中の交通影響検討【議事3】

- タイプAの工事がスタートしており、**実勢に合わせて交通量予測を見直し**。
- 夢洲周辺の各ボトルネック交差点での**交通量は若干減少し、全ての地点で交通容量内に収まっている**（容量に対する割合は約66～90%）。
- 万博・IR工事の通勤車両は、工事車両等の通行の少ない時間帯（6・7時台、17・18時台）の通行であるため、影響は少ない。
- 引き続き、随時パビリオン工程を確認し、適宜、影響検討の見直しを実施。

○今回見直した前提条件

- ・万博工事のタイプAについて、既に着手及び着手の予定が明確になったパビリオンは、その着手時期（R6.1月など）とし、それ以外は前回同様、R6.5月着手と想定（全工事車両のピーク日台数は3,436台/日→3,368台/日に減）。
 - ・万博・IR工事の通勤車両（万博は夢洲内に1000台の駐車場を整備）を考慮（6時・7時台、17時・18時台に通行）。
- ※インフラ工事車両、一般交通（物流含む）は前回と同様。

○影響検討結果のまとめ



1-2 万博会場周辺の交通課題と対応案【議事4】

- 夢洲内での工事車両・作業員車両の増加を見据え、**会場への出入り口増設、工事車両待機場所の確保など、具体策の内容を更新**。
- 引き続き、工事の進捗に応じて状況をきめ細かく確認し、柔軟に対応。

○対応箇所図



※ 今後の調整状況により、変更となる場合がある。

○対応スケジュール

		令和6年												令和7年		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
工事車両対策	①車両出入口	3か所		4か所		7か所		8か所		7か所		8か所				
	②観光外周道路での待機場所					観光外周道路の活用（約1,500m）※概ね150台分						観光外周道路の活用（約2,000m）※概ね200台分				
	③建設作業員の駐車場等	0台	300台		500台		1000台									
物流対策	④待機場の整備	520台			540台									700台		
	⑤ゲート時間延長													実施（物流車両や工事車両の多い時期を対象）		
	⑥ゲート増設	増設工事												運用		
	⑦CONPAS	準備												本格運用		
⑧夢洲北高架橋の前倒し		高架橋整備												工事車両車両への通行を活用		

※ 万博関係者の通勤車両の削減等に寄与するよう、Osaka Metro中央線の夢洲駅までの鉄道運行を万博開幕の2か月以上前の令和7年1月末に開業できるよう取り組む

2. 万博開催期間中の交通影響等について ～新規～

2-1 万博開催期間中の交通影響検討【議事5】

- 万博・IR・物流とも、全てのピーク台数の予測値を合算し、厳しい条件のもと影響検討を実施。
- 阪神高速湾岸舞洲出口の繁忙期・通常期においては、8時、9時、10時台で容量を超過。
- 湾岸舞洲出口以外は、容量内に収まっている。
- 引き続き、来場者輸送具体方針の更新等、必要に応じて、適宜影響検討を見直す。

○前提条件

- ・万博車両：日ピーク来場者（22.7万人）における台数（来場者輸送具体方針 第3版より）
※交通影響が想定される地点は、万博の「通常期」「閑散期」（ともに来場者輸送具体方針 第3版より）のピーク日（20.4万人、13.6万人）も合わせてチェック
※舞洲駐車場の利用を団体バスの駐車台数に応じて、団体バスの最小・最大の2ケースを検討
- ・I R車両：万博開催期間のうち最大となる令和7年10月時点の車両台数（2,182台/日）
- ・物流車両：2025年までの伸び率を考慮した約11,200台/日（ピーク週の平日平均）、咲洲シフト（空コンテナシフト、本船シフト）は考慮しない
- ・一般車両：2021年10月の博覧会協会調査の交通量調査結果を反映

○影響検討結果のまとめ【各検討地点の最も厳しい方向・時間帯の結果（超過箇所の車両台数調整を行わず）】

③白津1丁目交差点（北ルート）
此花大橋→夢舞大橋方面の8時台
容量4,100pcu/h
・繁忙期 3,808pcu/h (93%)
・通常期 3,795pcu/h (93%)
・閑散期 3,456pcu/h (84%)

②舞洲東交差点（北ルート）
此花大橋→夢舞大橋方面の9時台
容量3,960pcu/h
・繁忙期 2,117pcu/h (53%)

①夢舞大橋南詰交差点（北ルート）
夢舞大橋→外周道路の8時台
容量1,980pcu/h
・繁忙期 1,540pcu/h (78%)

⑥咲洲トンネル西交差点
夢洲→咲洲方面（南ルート）の14時台
容量1,740pcu/h（信号調整後）
・繁忙期 1,683pcu/h (97%)
・通常期 1,683pcu/h (97%)
・閑散期 1,682pcu/h (97%)

港区→夢洲方面（中央ルート）の10時台
容量511pcu/h（信号調整後）
・繁忙期 491pcu/h (96%)
・通常期 484pcu/h (95%)
・閑散期 462pcu/h (90%)

④阪神高速 湾岸舞洲出口
「合流部」の8時台
容量2,150pcu/h
・繁忙期 2,308pcu/h (107%)
・通常期 2,300pcu/h (107%)
・閑散期 2,145pcu/h (100%)
※ 繁忙期、通常期の8時・9時・10時台で超過

「天保山方面から」の8時台
容量1,350pcu/h
・繁忙期 1,478pcu/h (109%)
・通常期 1,473pcu/h (109%)
・閑散期 1,312pcu/h (97%)
※ 繁忙期、通常期の8時・9時台で超過

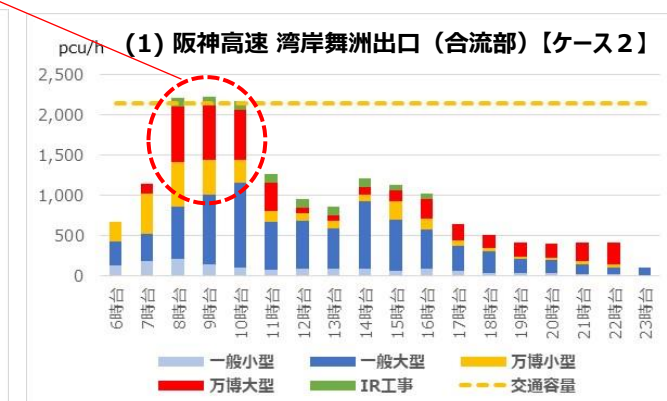
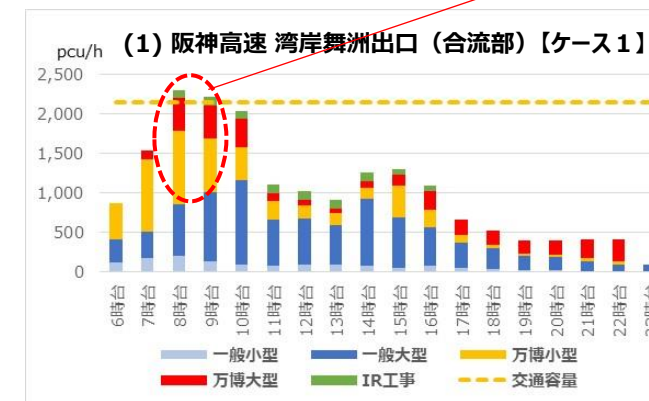
⑤阪神高速 天保山JCT渡り線
大阪港線→湾岸線方面の9時台
容量2,000pcu/h
・繁忙期 1,945pcu/h (97%)
・通常期 1,941pcu/h (97%)
・閑散期 1,845pcu/h (92%)

2-2 交通影響検討結果を踏まえた交通容量超過箇所への基本的な対応【議事5】

- 交通影響検討の結果、阪神高速湾岸舞洲出口において、繁忙期・通常期の8時・9時・10時台で容量を超過。
- 容量超過箇所への対応として、以下の対策を実施し、容量内に収める。
 - ・IR工事車両の通行の時間帯や他の出口の利用等による調整。
 - ・万博来場者車両の時間帯ごとの予約枠のコントロールによる調整。

④阪神高速 湾岸舞洲出口【合流部】（繁忙期）の結果

容量超過分を、IRでの調整のうえ、万博においても調整し、容量内に収める



- ・ケース1 舞洲駐車場の利用を団体バス300台、舞洲P自家用車6240台
- ・ケース2 舞洲駐車場の利用を団体バス1000台、舞洲P自家用車3450台

2-3 円滑な交通確保に向けた追加的な対応（案）【議事5】

- 今回の交通影響の推計は、来場者・IR工事・物流全てのピーク台数の予測値を合算し、厳しい条件で行っており、このような状況が懸念される時間帯等は限定的と考えられるが、実際の交通量に一定の変動（一般交通等）が想定されることから、追加的な手法について準備を進めることが重要。
- 万博開催期間中は、最新のデータから直近のより詳細な交通量の把握を行い、交通影響が想定される場合は、その場所・時間帯等を特定し、対策を実施する。
- 具体的な対策手法の抽出や、必要性を判断し対策を決定する仕組みなど、早急に具体化を図る。